

平成28年度・事業実施評価表(教育領域);言語文化学科

作成日:2017年3月28日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	適正な評価が行われている。	5	現状を維持する。	5	-	現状を維持した。	5	現状を維持した。		
				2	AO入試で受入方針に合った入学者を確保する。	項目別数値評価方法を定め、実施した。	5	数値評価を継続して実施する。	5	-	数値評価を継続して実施している。	5	数値評価を継続して実施した。		
				3	学部学科の充実策に応じて受け入れ方針を見直す。	見直しがなされていない。	3	方針を見直し、学部で表記を統一する。	4	-	方針を見直し、学部で表記を統一した。	5	方針を見直し、学部で表記を統一した。		
			(2)教養教育の充実化	4	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	「山陽スタンダード」科目で行われている。	4	現状を維持する。	4	-	現状を維持した。	4	現状を維持した。		
				5	健康や文化への価値観を高める。	「人間学」で具体的に講義されている。	5	現状を維持する。	5	-	現状を維持した。	5	現状を維持した。		
				6	社会活動・地域貢献に対する価値観を高める。	価値観の深化が十分でない。	3	必修科目などで活動を継続し、その意義に気づかせる。	4	-	必修科目などで活動を継続し、ある程度はその意義に気づかせることができた。	4	必修科目などで活動を継続し、ある程度はその意義に気づかせることができた。		
				7	学園への帰属意識を高める。	学科で大学祭に参加している。	4	大学祭や記念行事に参加する。	4	-	大学祭や記念行事に参加した。	4	大学祭や記念行事に参加した。		
				8	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	山陽スタンダード科目や基礎演習の充実に努めている。	4	アクティブラーニングを取り入れ、さらに充実に努める。	4	-	アクティブラーニングを取り入れ、さらに充実に努めている。	4	アクティブラーニングを取り入れ、さらに充実に努めた。		
				9	専門科目の充実を図る。	学科のカリキュラム改訂を検討した。	4	カリキュラム改訂に向けて制度を整備する。	4	-	カリキュラム改訂検討中である。	4	カリキュラム改訂を行い、制度を整備した。		
			(3)学士力の向上のため、学部・学科等のディプロマポリシーのさらなる実質化。	10	成績評価を厳格にする。	十分に行われている。	5	現状を維持する。	5	-	現状を維持した。	5	現状を維持した。		
				11	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	必修科目やゼミ等で行われている。	4	現状を維持する。	4	-	現状を維持した。	4	現状を維持した。		
				12	体験交流重視教育を強化する。	必修科目や留学・実習科目で実施している。	3回/年	1〜3年の必修科目で年3回以上実施する。	3回/年	-	1年で2回行った。	3回/年	1〜3年の必修科目で年3回以上実施した。		
				13	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	必修科目などで実施している。	2回/年	新入生研修で地域貢献への導入を行う。	2回/年	-	新入生研修で地域貢献への導入を行った。	2回/年	新入生研修で地域貢献への導入を行った。		
				14	思考・表現力、異文化理解力、コミュニケーション力を高める。	必修科目などで実施している。	4	アクティブラーニングを促進する。	4	-	アクティブラーニングを促進している。	4	アクティブラーニングを促進した。		
				15	留学や実習などの海外経験を促進する。	留学・実習系科目で促進している。	4	さらに促進する。	4	-	共生Gなどの協力も得て促進している。	4	共生Gなどの協力も得て促進した。		
				16	専門性を高め、広く学ぶ。	主副専攻制、コース制を検討した。	4	コース制に向けて制度を整備する。	4	-	コース制に向けて制度を整備している。	5	コース制に向けて制度を整備した。		
				17	日本・アジア言語文化コースの学びの充実を図る。	コースの目標や系統図などを検討した。	4	コースのカリキュラムを作る。	4	-	コースのカリキュラムを作っている。	5	コースのカリキュラムを作った。		
				18	英語文化コミュニケーションコースの学びの充実を図る。	コースの目標や系統図などを検討した。	4	コースのカリキュラムを作る。	4	-	コースのカリキュラムを作っている。	5	コースのカリキュラムを作った。		
				19	英語特待生、英語特集中講座を継続して実施する。	第3期目を実施し、前回より受講者が増えた。	各2名	講座の周知と受講者の増加を目指す。	各3名	-	前期は19名の申込があった。	各3名	前期19名、後期6名の受講があった。全体としては前回より増加した。		
		(4)学修支援の強化。	20	アドバイザー制度などを活用する。	履修や学生生活指導に活用されている。	4	学習問題の早期発見・相談に努める。	4	-	学習問題の早期発見・相談に努めている。	4	学習問題の早期発見・相談に努めた。			
			21	初年次教育の総合的な支援のしくみを作る。	総合的支援システムは構築されていない。	2	総合的支援のしくみ作りを検討する。	3	-	総合的支援システムは構築されていない。	2	総合的支援システムは構築されていない。			
			22	学修の自己管理能力を養成する。	修得単位が少ない学生に注意書を送付する。	4	注意書に加え、面談指導などを行う。	4	-	注意書に加え、面談指導などを行っている。	4	注意書に加え、面談指導などを行った。			
			23	資格等取得指導を強化する。	指導の目的と方法を検討した。	2	定期的調査と指導を実施する。	3	-	前期始めに調査を行い、指導した。	3	各学期始めに調査を行い、指導した。			
		(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	24	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活講座への参加が不足している。	2	課外講座への参加を促す	3	-	課外講座への参加を促す	3	課外講座への参加を促したが、参加率の低い講座が複数あった。			
			25	社会人基礎力の強化を図る。	就職支援科目の受講がやや不足している。	3	社会人入門などの受講を促す。	3	-	社会人入門などの受講を促す。	2	社会人入門などの受講を促したにも関わらず、受講率は低かった。			
			26	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る。	ポイントシステムの学科独自の活用を検討した	2	キャリア支援システムの活用を促す。	3	-	キャリア支援システムの活用はあまりできていない。	2	キャリア支援システムの活用はあまりできなかった。			
			27	ホテルエアライン課外プログラムの充実を図る。	各学年で平均5名程度受講している。	各5名	正課科目としての導入を検討する。	各5名	-	正課科目としての導入を検討している。	各3名	正課科目としての導入を決めた。履修者は減っている。			
			28	ビジネス能力開発等の正課内プログラムの充実を図る。	検定の受験を義務づけた。	4	指導を強化し、検定合格を増やす。	4	-	履修を促進した。履修者が増えた。	4	ほぼ全員が履修し、留学生2名を含む18名が合格した。			
		(6)学生支援の強化	29	外国人留学生支援方策を検討する。	出席に問題がある留学生の指導を行った。	3	出席状況を注視し、特別指導を行う。	3	-	出席状況を注視し、特別指導を行っている。	4	出席状況を注視し、特別指導を行った。			
			30	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標に達していない。	5.6%	目標に向けて努力する。	3.5%	-	目標に向けて達成の努力をしている。	4.7%	達成の努力をしたが、現時点で目標値に達しなかった。			
			31	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する。	5	-	現状を維持する。	5	現状を維持した。			
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	32	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	OCの形式を変え、HP更新のしくみを作った	3	広報ポイントを定め、方法を検討する。	4	-	広報ポイントを定め、学科独自の高校訪問を行う予定である。	4	広報ポイントを定め、学科独自の高校訪問を行った。		
				33	ホームページを改定する。	教員紹介のページを更新した。	1回/年	年1度は教員紹介を更新する。	1回/年	-	前期始めに教員紹介を更新した。	1回/年	年1回教員紹介を更新した。		
				34	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する。	学科ニュースの更新が目標に達していない。	9回/年	学科ニュースを年10回以上更新する。	10回/年	-	更新を行っている。	10回/年	更新回数は目標を達成したが、予定した項目の一部を更新できなかった。		
				35	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	目指す学科像を検討した。	3	目指す学科像の共有と広報に努める。	4	-	目指す学科像の共有と広報に努めている。	4	目指す学科像の共有と広報に努めた。		
				36	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	OCの内容に改善の余地がある。	3	OC参加者の受験率向上に努める。	4	-	OC参加者は増加している。	-	OC参加者、受験者はともに増加した。両者の重なりは現時点では調査できない。		
				37	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加を得て効果を上げている。	4	引き続き学生の参加を求める。	4	-	現在までの所、毎回協力を得ている。	4	OCの全ての回において学生の協力を得た。		
				38	必要な入試制度の見直しを行う。	平成26年度の見直しを維持した。	4	AO入試の試験日程を早める。	4	-	AO入試の試験日程を早め、出願があった。	4	AO入試の試験日程を早め、受験数が増えた。		
				39	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	特別編入で1名の入学があった。	2%	さらに広報を行う。	5%	-	特別な広報は実施していない。	2%	編入学で1名入学予定者がいる。		
				40	総人学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	入試広報部と連携して実施している。	4	入試広報部との連携をさらに深める。	4	-	入試広報部との連携し学科独自の高校訪問を1度実施した。	4	入試広報部との連携し学科独自の高校訪問を2度実施した。		
				キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し強化	41	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標は達成している。	95%	100%を目指す。	100%	-	85%	現時点では85%である。	
		42	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。			キャリアセンターと連携して行っている。	4	さらに連携を深める。	4	-	さらに連携を深める。	4	保護者会は教務課、就職懇談会はキャリアセンターと連携して実施した。		
		43	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。			資格を生かした就職支援に尽力している。	4	引き続き支援を行う。	4	-	資格を生かした就職支援に尽力している。	4	資格を生かした就職支援に尽力した。教職で2名の就職予定がある。		

\*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)